

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671700270
法人名	医療法人 中西クリニック
事業所名	グループホーム美郷
所在地	徳島県吉野川市美郷毛無92-3 (電話) 0883-26-7577

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 10 月 24 日

【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 8 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤:12人、非常勤:2人、常勤換算:1F 7人、2F 7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階 部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 8 日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	66 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	橋本歯科クリニック、中西内科クリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は旧道から入った山間部に位置し、その中でも比較的人の行き交う場所にある。利用者は自然豊かな環境の中で、ゆったりと穏やかに暮らしている。同一法人の医療機関の協力により、家族と相談のうえ重度化した場合や終末期の対応も行われており、安心へとつながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での課題「地域とのつきあい」、「運営推進会議を活かした取り組み」、「市町村との連携」、「日常的な外出支援」、「鍵をかけないケアの実践」、「災害対策」については全職員で取り組み、改善されている。「職員を育てる取り組み」、「同業者との交流を通じた向上」については改善に至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が前向きな姿勢で評価に取り組み、サービスの改善に繋げている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月ごとに開催し、利用者や家族、自治会長、民生委員、老人会、駐在所職員、中学校教諭、地域包括支援センター職員で構成されている。会議では運営状況や取り組みの報告、地域行事への参加や幼稚園・小学校などとの交流についての意見交換が行われ会議録も残されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの要望等は意見箱を設置したり、運営推進会議に参加してもらった際に把握している。また面会時や電話の際にも不安などについて聞いている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩の際に顔見知りとなった人から野菜をもらうなど、馴染みの関係が築かれている。事業所からは小中学校の運動会に参加したり、地域の阿波踊り連が事業所に来訪した際には近所に声をかけたりするなど積極的に交流を図っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	みんなで一緒に支え合い、住み慣れた地域で安心した暮らしと地域との関係性強化を大切にしたい理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で理念を毎日唱和するなど、日々の暮らしの中で意義を確認し実践に向けた取り組みが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の際に顔見知りとなった人から野菜をもらうなど、馴染みの関係が築かれている。事業所からは小中学校の運動会に参加したり、地域の阿波踊り連が事業所に来訪した際には近所に声をかけたりするなど積極的に交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が前向きな姿勢で評価に取り組み、サービスの改善に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月ごとに開催し、利用者や家族、自治会長、民生委員、老人会、駐在所職員、中学校教諭、地域包括支援センター職員で構成されている。会議では運営状況や取り組みの報告、地域行事への参加や幼稚園・小学校などとの交流についての意見交換が行われている。会議録はあるが、職員の確認印・サインはない。	○	会議録を確認した際は、確認印・サインを残すことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月入退居状況の報告を行った際に、情報収集や意見交換などを行い、サービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりの写真を添えて、体調や暮らしぶり、レクリエーションに参加した様子、介護計画などを毎月、家族に報告している。金銭管理は家族に報告されているが、確認印・サインをもらうには至っていない。	○	金銭管理の記録は家族の確認印・サインをもらわれたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望等は意見箱を設置したり、運営推進会議に参加してもらった際に把握している。また面会時や電話の際にも不安などについて聞いている。しかし、利用料等の管理は母体法人で行っており、家族からの問い合わせに対して迅速な対応ができていない。		家族からの利用料などに関する問い合わせに迅速に対応できるよう、母体法人との連絡体制を整えるなどの取り組みが期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず離職や異動があった場合には、そのつど丁寧に説明を行い、利用者への影響がないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加したことが分かる記録はない。	○	研修を計画的に受講できるよう配慮することが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人及び関連法人のグループホーム間では管理者会議などで交流し、情報交換や連携を図っている。しかし他法人のグループホームとの交流までには至っていない。	○	他法人のグループホームとの交流を図ることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の前に見学や説明を行い、ホームの様子を伝えている。また入居後はホームでの生活に慣れるまで、家族に面会や宿泊に来てもらうなど相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に寄り添い、思いや苦しみ、不安、喜びなどの理解に努めて分かち合うことに努めている。また季節の行事等を利用者から教えてもらうなど共に過ごし支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の話に耳を傾け、その人らしい暮らしができるよう支援している。意向の把握が困難な利用者には、家族などと相談しながら本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向や意見、日々の暮らしの状況などをもとに関係者間で話し合い、介護計画を作成している。計画書には家族のサインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて見直している。毎月の家族への報告に合わせて介護計画も送付して意見を聞いたり、日々の暮らしの中から気付いた事を職員間で共有したりして、随時の見直しに活用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望を聞き、可能な限り受診への付き添いや外出・外泊の支援を行うなど、一人ひとりの満足度を高める事ができるよう対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一法人の医療機関による24時間の協力体制がある。また利用者や家族が希望するかかりつけ医との連携を密にした支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、家族やかかりつけ医などと相談しながら方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や入浴への言葉かけや介助はさりげなく行い、利用者の意思や誇りを傷つけないよう配慮されている。記録等の個人情報もプライバシーに配慮し、事務室内に整頓して管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活リズムを尊重し、散歩や外出などへの参加、入浴の時間帯などは希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と共に調理の準備や後片付けを行い、共に食事を楽しんでいる。またおやつは好みのものを相談しながら作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望によりいつでも入浴できる体制がある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望や能力に合わせて食事の準備や後片付けなどの役割があり、職員と共に楽しみながら生活している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりに声をかけ、毎日できる限り外出できるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関は道路に面しているため、利用者の安全を考慮して家族の同意を得て施錠することがある。道路に面していない裏口は自由に入出りができるように、日中は施錠していない。	○	日中は鍵をかけないケアの工夫と実践に取り組みたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や警察の協力を得て、避難や消火方法の訓練、避難経路の確認を行っている。また地域の人々の協力を得られるよう積極的に働きかけを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量はチェック表に記録し、職員間で情報を共有している。献立は、栄養の偏りがないよう法人の管理栄養士が作成している。水分は入浴後や体を動かした後などにも積極的に摂るように心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間からは山の緑と清流が近くに見ることができ、季節感を感じる事ができる。居間では新聞を読んだり、台所の動きなどが見られたりして居心地よく過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族の要望を聞いて仏壇や写真などを置き、安心感をもって過ごせるよう配慮している。		